

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス にしはら太陽の子		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		令和7年 12月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 25日		令和7年 12月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間、保護者との間で児童の特性等、情報共有が図られている	◎SNSを活用し、保護者、職員が情報共有できるようにし、また送迎時に当日の活動内容や情報共有を行い、場合によっては家族支援を提供している。	◎今後、家族支援加算を活用し、家庭での困りごとや、成長に合わせてアドバイスをし、家族支援からの個別支援へ繋げていく。
2	ひとりひとりに合った支援を心掛けている 行事などの工夫	◎担当制を導入し、支援提供内容のマンネリ化を防ぎ、個別支援記録を参考に、支援内容の重複を防ぎ、個別の特性に合った、本人主体のサービス提供をしている。 ◎行事内容や計画書は当日利用児童のニーズに合わせている。	◎毎回、支援前に支援会議を行い当日利用児童の特性や、支援内容などを全職員で共有し、支援の見直しや勉強会を実施する。
3	職員のスキルアップ	◎全員参加の月例会議にて研修日程確認後、人員配置の検討を行い色々な研修を受講している。	◎管理者、児童発達支援管理責任者、主任はいつでも、どこでも状況に応じてアドバイスや指導を行い、支援の質の低下を防ぎ、安全確保をしつつ支援の質の向上に努める。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	クールダウンできる部屋がない	◎法的な面積は確保されているが、聴覚過敏の児童が利用の際、他児との距離を取るための部屋がなく更衣室を利用している為不十分である。	◎隣接する児童センターの活用でレイアウト変更が必要である。
2	保護者との交流する機会が少ない。	◎保護者との交流会を計画したが、事業の開所時間内だと仕事をされている保護者が多く、参加者が集まらなかった。対策としてモニタリング、担当者会議、送迎時などに交流を図っているが不十分である。	◎保護者のニーズに合った
3	利用児童が多い際は細かい支援が出来ていない。	◎職員それぞれに担当を決め支援を行っているが、職員の急な休みや振替利用時など特に担当人数が多くなるため細かい支援が確実に行えていない時がある。 ◎求人を出しているがなかなか募集が来ていない。	◎人員増に向けて、求人票の見直し。 ◎担当人数が多い際の支援方法。各職員のスキルアップ。